

年頭所感 今年も宜しくお願い致します

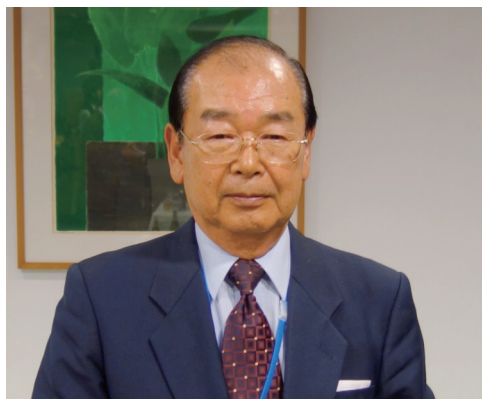
年初にあたり、新聞やテレビで数多くの経営者の方々の今年の経営予測、企業動向などを聞かせて頂きました。大企業の経営者は、こここのころの好況を反映して力強い抱負を述べられる方が多い一方で、中堅・中小企業の経営者は、今年も厳しい環境を予測されており、これを受けて我々 ATAC も益々真剣にご支援の努力を重ねてゆく覚悟です。

お蔭様で ATAC も設立以来 28 年目を迎えることとなりました。25 年の一昨年には記念事業も行いましたが、これを機に新たな気持ちで新規の ATAC 発足に取り組んでおります。

昨年を振り返りますと、我が国のモノづくり企業で幾つかの企業倫理に欠ける不祥事が世間を騒がせました。

今から 10 数年前、吉兆や赤福など、名門で食品偽装が続いて発覚し、食品業界の信頼性に大きな疑問を残したことはまだ記憶に残っていることでしょう。その後、企業のコンプライアンスが大きく取り上げられ、ATAC でも中小企業のコンプライアンスを主題とした講演会も開きました。しかし、その甲斐もなく、今度はモノづくりでの不祥事です。

しかも、日本の発展を支えてきたモノづくりの中心を担う大企業での偽装や不祥事でした。



(一財) 大阪科学技術センター
ATAC運営委員長
梶原 孝生

日産自動車、神戸製鋼、スバル自動車、三菱マテリアルなど、日本のモノづくりを支えてきた誇らしい企業での不祥事に、大変心を痛めた次第です。

また、第3者委員会などでの検証が進められており、迂闊なことは言えませんが、おそらく、自企業内からの内部告発、それも今

のネット社会での SNS がらみから始まったことでしょう。

本年は、今のところかつてのバブルを彷彿させるような株価の上昇や自己資金の増加など晴れやかな気配が続いては居ますが、上記の企業倫理、コンプライアンス強化など、気を引き締めて毎日の活動に当たって欲しいと望んでおります。

多くの中小企業の経営者の方々とお会いする機会が多い毎日ですが、その中で、厳しい環境に対応し、素晴らしい展望、ゆるぎない経営姿勢を持ってられる経営者がおられ、私自身、そこから学ぶことも多く尊敬しているケースが多々あります。そこから我々も学んで、益々の活動強化を図り、中小企業の支援に邁進する覚悟ですので引き続き、ご指導ご鞭撻を望んでおります。本年も宜しくご指導、ご鞭撻をお願い致します。

第11回OB活用全国会議 OB活用組織間の連携強化について

OB活用全国会議は、「2007年問題」と呼ばれた、大量に定年退職してくる団塊の世代を中小企業の支援に役立てようとの主旨で、大阪科学技術センター ATAC の呼びかけで、2007年11月に発足した。今回は11回目で、2017年10月31日(火)大阪科学技術センターで開催した。

〈諸団体の活動報告と連携活動への展望〉

開催の主旨であるOB活用組織間の連携と公的機関との連携による中小企業への支援方策等に関して、参加10団体から活動の内容が披歴された。

(1) 一般財団法人 関西産業活性協議会

活動報告（以下Aという）：

関西6団体、210名が集まって活動を行っている。約70件の引き合いに対し、10件程度対応できなかった。これをこの会の団体の連携で対応していきたい。

連携又は課題（以下Bという）：

普段から各団体の役員間交流が必要と考えている。

(2) キャリア・コンサルタント協同組合 (CCK)

A：①技術コンサルタントだけでなく幅広く事業展開を行っている。(外国人労働者の研修等)②協同組合という組織運営 また、平成7年に理事長を交代し組織の若返りを図っている。

B：商工会議所が行うOB人材のマッチング

事業、テレワーク協会の事務局を受託。

- ・CCKの存在意義として関東地区との連携を進めると良いと考えている。
- ・シニアの団体の継続は難しいが、CCKは異質な仕事を入れ事業転換を行った為、継続できている。継続は力なりでこの会は継続して欲しい。

(3) (一社) 日本機械学会関西支部シニア会

A：日本機械学会所属の60歳以上の人材200名で活動。コンサル依頼があった場合は学会の性格上、対応できる個人を紹介している。

B：機械学会本部、大学、高専、府工業協会との連携を行っている。課題としては入会者、会員の高齢化等がある。

(4) NPO 法人ノウハウ会

A：大阪府環境交流パートナーズ事業、経産省ものづくり応援事業を受託、活動している。

B：情報共有と共に共感してもらえないと動いてもらえない。また日頃の意志疎通が重要で組織間の連携はギブ&テイクが基本。

(5) 株式会社 パワー・マーケティング

A：電力会社の通信系の販売支援事業と企業OB人材サービスを行っている。

B：1団体だけで行うより複数団体会場を借りて人材マッチングサービス説明会を行うと効果があると考えている。



第11回OB活用全国会議 2017年10月31日 大阪科学技術センターにて

(6) NPO 法人 ものづくり人材アタッセ

- A：平成 16 年からプラスチック系企業 OB 中心に 30 名程度で活動。
 B：案件が減少していることもありプラスチック協議会、学会関西支部の教育を受注する事に注力。

(7) NPO 法人 ATAC・MATE 奈良

- A：現在 13 名のうち 5 名は海外勤務経験者で外国人労働者と経営者の教育を行っている。奈良では 10 名前後の小規模事業者が多く経営面で苦労しているところが多い
 B：あずやん (IT 企業)、やまと錦魚園 (IOT による養殖効率化)、上田技研 (木材運搬装置等) と連携を行っている。各団体の性格が異なる為共通の答えは難しい。専門的なコンサルは民間企業の方のレベルが高くなっており、対応が難しくなっているが角度を変えると経営支援等に結び付きコンサルに繋がりがやすい。

(8) 認定 NPO 法人 産業人 OB ネット

- A：平成 18 年に設立し 11 年が経過。会員数は 99 名、団体会員数は 52 社。平均年齢は 71 歳、2/3 は技術者、1/4 は銀行、マスコミ、校長先生等。収入は 50 社の賛助会員収入とコンサル収入の 15% を運営協力金として当てている。
 B：クライアントは兵庫県にかたよっている事と 70 件のうち 10 件程度は対応できず兵庫県技術士協会に紹介している。

(9) 株式会社 ジェムコ日本経営

- A：経営コンサルタントを 4500 社の実績がある。関西で技術コンサルタント事業を 2011 年から開始。60 歳以上で 150 名の登録がある。(平均年齢 68 歳) 上場企業、中堅企業が顧客であるが対応できる人材が不足している。
 B：今後、関連団体との連携を深め、対応力を高めたい。

(10) (一財) 大阪科学技術センター ATAC

- A：現在 19 名で過去 1 年半の間、新入会員がない。
 B：ものづくり補助金の支援で信用金庫と連携を行っている。小規模事業者が多い。中堅企業と比較し、コンサルフィーの課題がある。

〈特別講演〉

企業のシーズ・ニーズのマッチング活動を全国的に展開している“リンカーズ”の加福副社長に最新の市場状況のご講演を頂いた。

- (i) **リンカーズの概況**：設立は 2012 年 4 月、現在 60 名弱で活動を行っている。ビジネス SNS<Distty>、ウェブ展示会<e EXPO>、ウェブ × 人のプラットフォーム <Linkers> を展開。Linkers で人を軸にしたマッチングに変えたことで成功。
 (ii) **リンカーズを用いたオープンイノベーションの事例**：大手 250 社から月 50 件の案件があり、【人づてネットワーク (2000 名以上の産業コーディネーターと 500 以上の産業支援機関)】でオープンイノベーションを支援している。最近では、地方銀行が金融庁の指導で地域活性化の為にオープンイノベーションを進めている。
 (iii) **今後の展開**：国内マッチングサービスをベースに海外調査サービスを提供するために海外でもネットワークサービスを構築している。国内では既存ネットワークを活用し用途開拓サービスの展開を図っている。

〈フリーデスカッション〉

最後にフリーデスカッションを行い、各団体の活動について活発な質疑応答がされた。質疑応答から顕在化した諸団体の共通課題は以下のようなことと想定された。

- ①引き続き活動に見合うコンサルタントフィーを提供できるものづくり企業群が段々少なくなってきたことへの対応。
- ②企業 OB となる年代が高齢化して、若手メンバー確保困難なことへの対応。
- ③IoT や AI に関する現代社会ニーズに対応できる人材確保への取り組み
- ④参加諸団体間の更なる密度濃い連携活動への取り組み。

以上のような課題に対して、相互連携を活発にして解決してゆき、高齢化社会の明るい未来実現に貢献していこうと誓い合って議事を終えた。

(三原恵二郎、田中敏明)



私のイタリア気まま旅

株式会社 中央電機計器製作所 会長 畑野 吉雄

昨年 4 回目の海外旅行にイタリアを選び、9 月 8 日に日本からローマに入りました。予約したホテルが心配でしたがテルミニ駅前にあり、敷地内にローマ時代の遺跡も持ち、素晴らしいロケーションでほっとしました。何分家内同行なので。

ローマでは定番のコロッセオ・トレビの泉・真実の口・ナポーナ広場等いずれも 6 年ほど前に家内と来たところです。今回はメトロ、市内バスを活用し時間をかけ、イタリア人の生活に溶け込んで過ごしました。

次にイタロ（民営新幹線）でフィレンツェに移動。初めてのイタロは快適そのもの、現地で購入したリターンチケットは一等車なのに安くてビックリ！時間帯、混み具合で値段が格段に違うよう。駅からはタクシーでホテルへ。ベッキオ橋、ウフィッツイ美術館に徒歩 2 分のホテルでした。結婚 45 周年旅行と、メールで伝えていたので部屋にはフルーツ山盛りのバスケットがメッセージとともに置いてありました。ラッキー、これで滞在中フルーツには困らない。



結婚 45 周年を祝うフルーツバスケット

ホテルの川向こうにワインショップをみつ



ドゥオーモそばのレストランにて

け、行ってみました。地下に大きなワインセラーを持つ有名店でした。3 種類の美味しいワインの試飲を楽しめました。ここはレストランもあり、次回は食事をしたところです。旧市街を歩き回り、昼食はドゥオーモそばのレストランで、19 ユーロのフィレンツェ名物リブステーキ皿とブルスケッター一人前を。二人で食べてもボリューム十分でした。ステーキはジューシイで柔らかく非常に美味しかったです。ドゥオーモは何度訪れても荘厳な雰囲気、キリスト教信者でなくても心が洗われます。ピッティ宮殿、時期的に花は少なかったが、きれいに手入れされた広大な庭園をゆっくり散策できました。丘の上に出るとドゥオーモの尖塔がかなたにそびえ、フィレンツェにいることを心の底から感じました。

オブショナルツアーはワイナリー見学です。ツアーの参加者約 40 人で、バスは満員。日本人は我々二人だけで、世界中の旅行者でいっぱいでした。キャンティ村はワイン祭りの最中でしたが、今回はツアーなので、そこでの途中下車は諦めました。2 か所のワイナリーではキャンティクラシコを、ピンテージものも試飲出来、本当に美味しかった。三年前に参加したブルゴーニュワイン祭りで試飲した 36 種類のワインと比較しても、トップクラスの味でした。イタリアは、何度行っても新しい発見があり、またいつか行きたい場所です。